VOICE

業務部門 プロジェクトリーダー

渡辺 潤 さん
Watanabe Jun



持っている資格
DELF B2（フランス語）
TOEIC 945点

専門分野
気候変動政策、市場メカニズム
カーボンクレジット

1日のスケジュール

- 9:00 始業
- 10:00 会議①
  プロジェクトメンバーとの打ち合わせ
- 11:00 デスクワーク
  クライアントへの説明資料作成、情報収集・発信にかかる業務
- 13:00 会議②
  クライアントとの会議で作業進捗の共有
- 15:00 発表
  イベントやウェビナーへ登壇
- 18:00 終業

現在の仕事

気候変動対策における JCM の推進

現在はおもに日本政府が推進する JCM（二国間クレジット制度）に関する業務を担当しています。気候変動対策の中でも市場メカニズムを用いた施策について委託事業、調査、コンサルティングに携わっています。日本での業務がベースですが、年に複数回タイを中心にアジア各国へ出張する機会があります。

国際協力業界を選んだきっかけ

海外に対する好奇心の赴くままに

小学生の頃から生き物や自然に触れることが好きで、読書を通じて環境問題にも関心を深めていました。高校時代のハンガリー留学で国境を越えた生活レベルの格差を目の当たりにし、経済発展について考える原体験になりました。途上国の実情を見て、実際に生活したいという思いから、JICA 海外協力隊に参加しました。

組織の魅力

ユニークな立場で橋渡し役を背負う

政府や民間企業のどちらでもない独特な中間的立場で、双方の視点を得ながら、横断型業務ができる点に面白みを感じています。また、オフィス出勤、テレワーク、海外出張を効果的に組み合わせることで業務の効率や質を高めることができるのが、OECC ならではの魅力だと思います。

専門性の見つけ方・磨き方

現場で自然に形成されていく

専門性は、組織に入ってからも身につくものと捉えています。自身の関心分野や大学・大学院での学問が仕事の内容に直結するとは限らず、仕事を通して徐々に専門性を形成することも可能です。また、日々の業務外のことにも興味を持ち続けて、情報をインプットすることが大切だと感じます。

学生のうちにやっておくべきこと

常にアンテナを張って興味・関心を広げること

自分の専門にとどまらず、広い視点で興味分野を開拓し、学び続けていくことが、昨今は特に必要だと思います。目の前の知識やスキルの習得に加えて、現場でどのように人が動いているのか、世界情勢を追い続けることも重要です。可能であれば、さまざまな企業や団体の方と交流する機会を持つとよいと思います。

Career Path

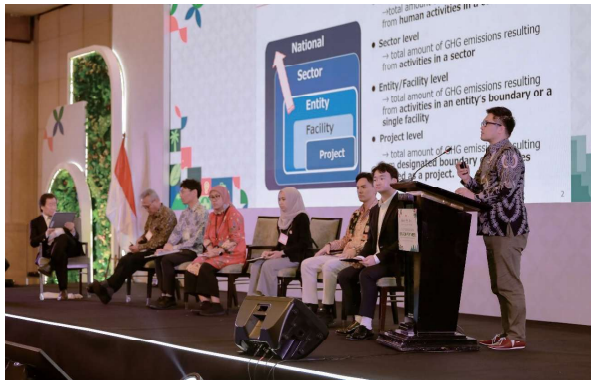
28歳
帰国後、国際協力×環境の興味に絞って就職活動を行い、OECC に入職。市場メカニズムに基づいた気候変動対策を中心に携わり続けて、現在 12 年目

25歳
高校生の頃に経験したハンガリー留学をきっかけに海外への好奇心が高まり、JICA 海外協力隊に参加。統計隊員としてベナン国の水産局に配属され、資源管理の統計整備に従事

23歳
環境問題や環境保全に関心があり、東京海洋大学（旧東京水産大学）の海洋環境学科に進学。大学院の海洋科学技術研究科では、建築物や建物設備の省エネルギーについて研究

一般社団法人 海外環境協力センター

環境政策の策定から実装までの伴走型支援を担う



インドネシア環境ウィークでモデレーターを務める竹本理事長（左端）とパネリストを務める加藤理事兼部門長（右端）

INFO

設立	1990 年 3 月
職員	約 50 人
本部	〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-1 幸ビル 3 階
Tel	03-6811-2500
Mail	soumu@oecc.or.jp

海外環境協力センター（OECC）は1990年の設立以来、環境開発協力に関する調査・研究、政策・制度立案支援などに取り組み、海外環境開発協力分野における日本の中核的組織として活動している。近年はシンクタンクやコンサルタントとしての機能に加え、官民の中立的な立場から、日本政府や外国政府、国際機関、自治体、民間企業など立場も文化も異なる多様なステークホルダーの間に立ち、信頼関係を築きながら橋渡しを行う。資金調達を含め、上流の政策策定から具体的な案件形成・実施まで一気通貫の「伴走型支援」を行い、制度や資金、技術をつなぎながら、現場での変化を実感できるダイナミックな国際協力を実践している。

注目される資金調達の能力

OECCは30年以上にわたり、地道に積み上げてきた経験と国内外のネットワークを最大限に活用し、開発途上国の環境課題の改善に努め、より良い社会の創出を目指して事業を展開。重点を置くのは「気候変動」「環境管理」「生物多様性」、「環境課題解決を分野横断的に取り組む「統合的アプローチ」の4分野。パートナーとなる途上国の課題とニーズを的確に分析・理解し、政策の立案・策定から現場におけるプロジェクト実施まで、各段階で専門的な知見とノウハウを注いで事業化まで一貫して伴走支援する。特に、国内外のさまざまな資金スキームをプロジェクトの内容・目的に応じてカスタマイズできることは同センターの大きな強みである。

地球環境問題への対処は待ったなしの状況だが、対策に必要な資金調達や投資条件の整備には途上国の現状や国際スキーム要件に適した知恵と工夫が必要だ。このような状況で、OECCの多様なソースからの資金計画設計と調達能力は注目される。また、国連気候変動枠組条約や生物多様性条約などでの国際交渉支援（キャパシティビルディングや遺伝資源へのアクセスと利益の配分に関する交渉支援）も同組織の大きな役割。日本政府代表団に職員を派遣し、時にリードネゴシエーターを務める。

Recruit 採用担当の声 Voice



事務局長兼業務部門 次長
松藤 佑介 さん
Matsufuji Yusuke

環境課題に関心のある方を歓迎

通年で募集をしている「環境国際コンサルタント」として、本邦企業の環境技術の海外展開や行政の経験を生かした国際環境協力に、共に汗を流し取り組める人を歓迎します。OECC には、民間企業、エンジニア、金融、行政、国際機関での経験など多様なバックグラウンドを持つ方が多く、それぞれの知見や視点を生かして協働できる環境が魅力の1つです。自分の専門性を生かしつつ、他者から学びながら成長したい方にとって、さまざまな経験を積める環境です。ご関心のある方はぜひ採用情報をご確認ください。

求める人物像
・変化を捉え柔軟に行動できる人
・対話を通じてニーズを把握できる人

必要な能力や歓迎する資格
英語力があれば仕事の幅が大きく広がります。環境は複合領域であり、自身の専門や経験を軸に、さらに知識や経験の幅を広げられる人材を歓迎します。